６－１　実践協力校における授業実践
事例①　小学校　３年生国語科

Ⅰ　単元計画

１．単元名　小学校第３学年　国語科「考えを深めよう」

２．単元の目標

①課題に関心をもち、考えをもとうとする。
②目的に応じ中心となる語や文をとらえ段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読める。
③目的や必要に応じ文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。
④文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付く。

３．単元の指導計画（５時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇課題に対して関心をもち、考えをもとうとする。 ◆市のホームページから夏休みが短縮された理由を知り、学習課題をもち、見通しを立てる。
2	◇投書や新聞記事を読み、中心となる文をとらえ、段落相互の関係に気づく。 ◆投書や新聞記事を読み、中心となる文をとらえ、意見と理由の書き方を知る。
3	◇投書や新聞記事・保護者アンケートから文章を引用したり要約したりしながら自分の考えをもつ。 ◆投書や新聞記事、保護者アンケートを参考に、自分の考えをワークシートに記入する。
4 本 時	◇文章を読んで考えたことを互いに聞き合い、一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあることを知り、自分の考えを深める。 ◆これまでの活動で考えたことをまとめ、一人ひとりの感じ方や考え方の違いを知る。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　○文章を読んで考えたことの発表を互いに聞き合い、一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあることを知り、自分の考えを深める。(4/5)

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視

２．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	**①前時までの学習を振り返る。** ＊相手の意見を変えることが目的ではなく、４つの「る」を意識して話し合うことを伝える。 （４つの「る」…広げ「る」・深め「る」・変え「る」・固め「る」） 友だちの考えを聞き、自分の考えを深めよう　夏休み短縮に賛成？反対？	
展開	**②自分の考えを発表する。** ＊前時に、児童が考えた意見をもとに、小黒板に、賛成か反対かのマグネットを貼っておく。この小黒板をもとに、「数のデータ」として活用してよいことを伝える。 ＊指名方法は相互指名とし、教師は板書する。 ＊意見に偏りが見られた際には、発言者を教師が指名する。 Ｃ：夏休み短縮に反対です。単身赴任でなかなか会えないお父さんのところに行くチャンスが減るからです。私は家族の時間を大切にしたいです。 Ｃ：私は賛成です。両親とも仕事が忙しく、夏休みは一人で留守番をしています。早く学校が始まれば、友達とも早く会えるので、	

	うれしいです。 C：僕は反対です。夏休み中でも友だちと会う約束をすればいい。 C：約束といっても、友だちの連絡先が分からないし、資料にあるように夏休み中は計画的に過ごせないから学校に行く方が生活リズムが整うと思う。 **③マグネットの位置を動かす。** ＊考えが変わった児童に、マグネットを動かす時間を設ける。 ＊考えが変わった児童を教師が指名しその根拠を発表させる。 **④発表を終えて、自分の考えを書く。** ＊考えが変わった児童も変わっていない児童も理由を書かせ、どちらも受容し、価値づける。	様々な資料を読み込み、客観的な視点を知ったうえで自分の考えをもつ 自分の意見を伝える仲間の意見を聞いて尊重する 仲間の意見を受け止め、改めて自分の意見を考える
まとめ	**⑤発表を終えてから書いた、自分の考えを発表する。** C：○○さんの意見を聞いて、賛成になりそうだったけど、やっぱり反対。 C：最初は反対だったけど、「友だちに早く会える」という意見に納得したから賛成に変えます。 C：もう授業が終わり？まだ意見を言いたいよ！ T：時間が足りないくらい、一生懸命に話し合ったね。みんなの書いた意見は、市の教育長さんに出す手紙として、先生がまとめます。次の時間は、まとめの文章に、みんなの意見がちゃんと入っているか、話し合いましょう。 **⑥ワークシートの提出**	・他者の考えを聞く（自分の考えを再構築する） **目指す子どもの姿** 身近な問題を自分のこととしてとらえ、主観と客観を交えながら、自分の考えを構築していく姿。 （文章を読んで）考えたことを聞き一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあることを知り、自分の考えを深めているか。（読む能力）

Ⅲ　研究協議



１．自評

○児童から「なぜ夏休みが短くなったのか」という疑問があり、ここから構想を練った。教科書で学んだ「話型」が身近な新聞記事などにもあり、それらを活用して話型を読み取る力をつけたいと考えた。児童から「この文章は（教科書の）○○の形に似ている」という気づきがあった。

○国語科として、読む力を育てたかった。具体的には、文型、要約文、グラフや資料などから読み取りができるか。また、様々な意見にそれぞれ価値があり、一つのことでも多角的な視点があることをわかってもらいたかった。児童たちは「アンケートを取りたい。（クラスの仲間や保護者や先生が）なぜそう思うか、理由を知りたい。」と、他者意識が育った姿を見せてくれた。児童たちは一生懸命に考えて、自分中心だった世界を少しだけ広げてくれたと思う。

○この題材は、高学年になれば、より多角的な視点が芽生えるし、例えば、自分／先生／保護者という立場に焦点を当てるなど、また別の取り組み方が工夫できる。

＜コラム＞
市の教育長から、児童の意見を集約した「手紙」の返事が届きました。児童にとって、地域社会とつながる実感がもてる貴重な機会となりました。

２．研究協議のテーマ

○発達の段階に即した合意形成の在り方について

３．成果と課題

成果・児童の実態や発達の段階に即した合意形成の手立てを工夫することが重要であることが確認された。まずは、自分の意見を根拠をもって考え伝える姿や、他者の意見を尊重する姿が、政治的教養を育む教育において目指すべき第一歩である。

課題・現実社会で決まってしまっていることを話題にすると、児童の話合いに向ける関心が低くなる心配がある。また、小学校国語科では、本来は「合意形成」が求められていない。「読むこと」という国語科のねらいを外さないようにして、そこに「政治的教養を育む教育のプロセス」を加えていくべきだった。

・現実の社会に出ていくことを想定し、いずれは他の教科や学級活動などで合意形成のやり方について触れる場面を、年間計画の中で意識しておく必要がある。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

H29－１　小学校　３年生国語科
それぞれの考えを深めよう

【単元目標】
- 身近な問題を自分のこととしてとらえ、考えをもとうとする。
- 様々な資料から自分の考えをもつ。
- 友だちの考えを聞き、その価値に触れながら自分の考えを深める。

【目指す子どもの姿】
- 身近な問題を自分のこととしてとらえ、主観と客観を交えながら自分の考えを構築していく姿

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全５時間）	ポイントになる学びのプロセス
身近にある「問い」の発見①　＊事例：夏休みの短縮について ・児童が思っている社会に対しての「問い（学級の実態に応じて、身近な問題に対して自ら考えようとすることが可能な題材）」を選び、学級で共有する。 ・その後、議論した内容をだれに伝えるのかを考える。 Ｃ：どうして夏休みが５日間短くなったのかな？ Ｔ：市のＨＰには、学校での授業時間が十分に取れるように、校長先生やＰＴＡの方々の意見も聞いて決定したとあります。 Ｃ：大人だけで決めたの？子どもの意見は聞いてもらえないのかなあ？ Ｔ：夏休み短縮について、調べたり考えたりしてみたいですか？夏休みが長くなる可能性は低いかもしれないけれど、みんなが真剣に考えて話し合うことに、価値があると先生は思います。話し合ったことをだれに伝えたい？ Ｃ：市の、教育関係の人がいい！ Ｔ：なるほど。それについては、先生の方でお願いしてみます。	**ポイント１** **○自分の身の周りのできごとに関心をもつ** 自分の身の周りにある身近な出来事から課題を見つける。
「問い」に関わる意見や資料を読み取る② ・自分の思い（主観）にこだわらず、複数の資料（新聞の投書欄やアンケート資料等の様々なデータ）を読み取り、自分の考えを深める。 ・「事実」と「意見」を区別してとらえるように指導し、文型を学び、それらを参考に「自分の意見」として、夏休み短縮について文章にまとめる。	**ポイント２** **○課題について考える** 様々な資料を読み取ることで客観的な視点をもつ。
学級で、お互いの考えを聞き合う① ・互いに意見を伝えあい、学級での仲間の意見と自分の意見を比較する。 ・自分の意見の良さや足りない点について考え、また、仲間の意見の良さについて考え、改めて「自分の意見」として文章でまとめ直す。 Ｃ：夏休み短縮に反対です。単身赴任でなかなか会えないお父さんのところに行くチャンスが減るからです。私は家族の時間を大切にしたいです。 Ｃ：私は賛成です。両親とも仕事が忙しく、夏休みは一人で留守番をしています。早く学校が始まれば、友達とも早く会えるのでうれしいです。 Ｃ：最初は反対だったけど、みんなの考えを聞いて、考えが変わったよ。	**ポイント３** **○他者の考えを聞く（自分の考えを再構築する）** 自らの意見を表明するとともに、他者の意見を尊重する。
話し合った内容を伝えよう① ・賛成・反対の代表的な意見を、あらかじめ授業者が説明文としてまとめておく。学級全体で検討したのち、市に発信する。	

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

児童が普段から思っている社会への「問い」を集め、単元構成を組み立てましょう。

児童が普段から思っている、さまざまな疑問には、単元構成につながる「問い」の芽が隠れています。児童との日頃のふれあいの中で、アンテナを高くして学習材を集めていきましょう。児童が日頃から感じている疑問をもとにした「問い」が授業で取り上げられることは、児童が主体的に活動に取り組んでいくことにつながります。主体的に考えていくことが、いずれは社会への参画につながるように、単元構成を工夫していきましょう。

ポイント2

さまざまな資料を活用し、「読む活動」を通して、客観的な視点を育てていきましょ

中学年の児童は、発達の段階として主観的に物事を考えてしまいがちです。しかし、少しずつでも他者意識が芽生えるよう、客観的な視点を育てていくことが大切です。本事例では、国語科として資料を読み取りながら文型を学ぶことに主眼を置きましたが、事実やデータ、自分以外の人の考えなど、さまざまな資料を活用することは、他教科や学級活動などでも、現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を身に付けるために有効です。

本事例では、中学年という発達の段階を考慮し、「保護者アンケート」は棒グラフで、また文型を学ぶ資料としての新聞記事は、読みやすいように段落を分けたり易しい言葉に置き換えたりしています。

なお、新聞記事を活用する場合は、複数の新聞社から選定するなど、資料の中立性にも配慮しましょう。

単元の最後に、どのような考え方・資料・データをもとにして自分の考えが固まったのかを振り返らせることは、客観的な視点をもつことに児童が気付くきっかけとなります。

ポイント3

自らの意見を表明するとともに、他者の意見を尊重する姿勢を育てましょう。

自分の意見を構築し、それを表現することは「政治的教養を育む」ために大切なことですが、同時に、一人ひとりの意見の「価値」を尊重できる姿勢を育てることも忘れてはいけません。児童が「少数派だから考えを伝える必要はない」「友だちと同じ意見だから自分が伝えなくてもよい」という消極的な発想に陥らないように、学級一人ひとりの意見が受容され、尊重し合う風土が構築されて、はじめて児童は安心して自分なりの言葉で発言することができます。



児童の発達の段階に応じて、いずれは互いに意見を発言し、他者の意見を尊重し合い、議論をかみ合わせ合意形成に至る過程を学ぶことになります。他者の意見を尊重することは、合意形成の素地となることでしょう。